

第一節 会話のある家庭を

今の教会は、希望の光みちが通り、本当の救いを得ることができます。草創期の頃は、病気が治ることが奇跡などと、形の救いを求めたことも事実です。しかし、本当の奇跡は、この呪縛から解放されたときに起こります。どういふことかといえれば、神の教えで自分を見詰め、真理に沿った生き方をしなければいけないことがつかめるのです。経済が絶対でも、政治が社会を良くするのではないと、分かるということです。

希望の光みちが通っていると、心もゆったりと、穏やかでいられます。心が穏やかなときは、運命が導く心の動きが取れています。表現を換えるなら、自分の分、器が分かり、その中で生きていけるのです。逆に、器をこぼれて無理をすれば、必ず弊害が起きてきます。ですから、無理、無駄な努力はしないことです。自分の分、器、力量、能力、経験の中で物事を組み立てるなら、日々穏やかな心で過ごしていけるからです。

しかし、現実はある知識にのみ込まれ、人の言葉に迷い、悩む例が少なくありません。誰にも、「これはこういうこと」と、また「今はどうあるべきか」と説けず、言葉がむなしく

流れていくだけです。政治家の議論にも結論がなく、個々の思いが強いために、他の政党の発言にあまり耳を傾けようもしない状況もあります。もつと穏やかになるべきです。

あるべき姿が分かっている人は、穏やかです。水か油かとどれほど議論しても、水は水、油は油です。これが分からないと、議論はいつまでも続きます。同様なことが、家の中で起きてくることに問題があると、神はお教えくださいます。

現代社会は、多くの問題を抱えています。子供をどこに預けるのか、高齢化社会をどう担うのか、地球の温暖化をどう防ぐのかと、問題提起はされています。世の中は答えが出ないまま迷走していきます。しかし、神示教会には答えがあります。神示を学ぶと、「こういうことだったのか」と分かるはずで

す。この環境に出入りし、神示、真理に触れていると、心は安定し、希望の光みちが通ります。そうして自分の分、器に重なる生き方をしていれば、人とぶつかるようなことはありません。一人の人間として、どう他者に関わればよいか分かると、相手も仕合せになり、自分自身も必ず良い人生を歩み抜いていけるのです。

今の世には他者を見下げる人が多く、自分の感覚に合わない人には冷たく接したり、相手の欠点を指摘するなど、言わなくてもよいことを言ったりします。それで相手が変われば、指摘は生きて、相手が強い口調で言い返せば、言った人は後悔するでしょう。神の教えを学ぶ信者は、絶対に人を見下げるようなことはしないものです。